

子守唄の里 福連木

官山物語



昭和初期の木馬引きを使っている様子

福連木にある国有林は、江戸時代に官山と呼ばれ、徳川將軍家の槍の柄はこの山の樫の木が用いられていました。
万治年間（1660年頃）代官鈴木重辰の時、初めて切り出しが行われ、元禄11年（1698年）遂に止山（立ち入り禁止）となり、切り出されるときは役人が付き添い、行列が通るときは百姓は土下座して見送らなければなりませんでした。およそ200年もの間、江戸幕府直轄の領地となりました。

子守唄の言い伝え



福ちゃん



福連木子守唄 & 童謡祭り

福連木の天然林は幕府の山となると同時に、住民は一歩も山に入れなくなり、稼ぎ山が無くなったことで苦しい生活を強いられ、小さな娘たちまでもが、子守奉公に出て家計を助けました。異郷の地でまじめに働いていたが、夕方になると夕焼け空を眺め、故郷懐かしさに「父ちゃん、母ちゃん」と呼びながら望郷の念に駆られた娘たちの子守唄の心情を唄に託したものが『福連木の子守唄』となりました。

キリシタン文化の里 大江



12 大江天主堂

昭和 7 年ガルニ工神父が私財を投じて建立し、昭和 8 年に完成したロマネスク建築様式の白亜の天主堂です。冬にはイルミネーションの飾りつけがあり多くの観光客が訪れています。

13 天草ロザリオ館

天草の潜伏キリシタンの生活・信仰の様子や文化を今に伝える資料館です。
キリシタン禁教時代の「隠し部屋」が祈りの声（オラショ）とともに再現されています。
マリア観音像や「経消しの壺」などの貴重な県指定重要文化財のキリシタン遺物も展示されています。



天草ロザリオ館

14 西平椿公園

およそ2万本のヤブ椿が公園一帯に広がり、前方は東シナ海に面し、大ヶ瀬、小ヶ瀬が一望できます。
公園内には150種の世界の椿を集めた「世界の椿園」や椿油を搾るカメラハウスなどがあり、毎年10月頃に椿の実の収穫が行われ、椿のみごろの時期である3月初旬には「あったか天草椿まつり」が開催されます。収穫された椿の実には「天草椿油」として商品化され、天ぶら料理などの食用に用いられ、スキンケアにも使われています。



大ヶ瀬



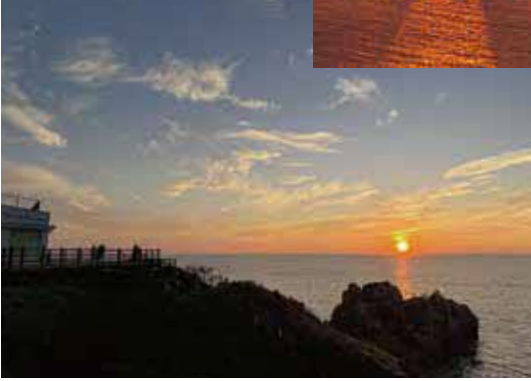
天草椿油

天草西海岸の夕陽

天草西海岸は、「日本の夕陽百選」にも選ばれるほど夕陽がきれいな場所。



大江西平



鬼海ヶ浦展望所

天草陶石

天草の窯業は1762年（宝暦12年）、高浜村庄屋6代目上田伝五右衛門武弼により皿山の地で高浜焼が開始されました。原料の天草陶石は、埋蔵量は世界一とも言われ、その焼き上がりは濁りのない透明感に強さを兼ね揃え、かの平賀源内も「天下無双の上品」と大絶賛したほどです。



採石場

磁器原料は中新世の火成活動によって流紋岩が陶石化してできた岩石で、国内生産の半数以上を占め、有田焼など高級磁器原料の7割を供給しています。平成15年には、天草陶磁器が、国の伝統工芸品に指定されました。毎年5月と10月には天草西海岸陶器市が開催されます。

陶石の里 高浜

11 上田本家(高浜焼寿芳窯)

上田家は、大阪夏の陣で有名な真田幸村と同祖。大阪城落城後に天草高浜の地に隠栖しました。
上田家 2 代目勘右衛門は、天領天草の代官、鈴木伊兵衛門重辰に、万治元年（1658年）8月、庄屋を命じられました。これが、庄屋上田家の祖であり、その後代々庄屋が受け継がれました。



1818年(文化12)に建築された建物

高浜ぶどうの由来

明治期に高浜村に伝えられたぶどうの木は、支那（中国）から来たと言われています。高浜の砂地がぶどう栽培に適していたため、高浜一円の庭先に植えられるようになり「高浜ぶどう」と呼ばれるようになりました。明治12年に栽培が始まり明治40年頃が最盛期でしたが、外来品種の普及と新たな病原菌の浸透、台風の影響などによって軒先から消えていきました。
紀行文『五足の靴』では「高浜の町は葡萄に掩はれて居る 家毎に棚がある 棚なき家は屋根に葡わす それを見て南の海の島らしい感じがした」と、高浜ぶどうが“たわわ”に実る南国の村風景を今に伝えています。
「文豪たちを魅了したかつての高浜の風景をもう一度、よみがえらせたい」という思いから平成21年に「ぶどう班」を結成。最後の1本の原木から挿し木を作り、苗を増やし、高浜ぶどうの栽培とぶどう棚のある風景の復活に取り組んでいます。令和元年から「天草高濱甲州ワイン」を特産品として販売しています。



収穫の様子



天草高濱甲州ワイン

天草まちづくり協議会
天草市役所天草支所
〒863-2804
熊本県天草市天草町高浜南488番地1
電話 0969-42-1111



2023.10

夕陽の里 下田南

6 鬼海ヶ浦海岸

干潮時の鬼海ヶ浦海岸では、いろいろな生物の観察ができ、海水浴や魚釣り、カヌー等ができます。景観もとてもよく親子連れで楽しめます。



Holiday Park 風来望のテラス

7 笠松からの妙見浦

妙見浦を見るなら知る人ぞ知る、笠松公園からがオススメ。春は桜が満開に咲き、景観ポイントまでの道のりを桜のトンネルで埋め尽くされます。

昭和10年に国指定名勝天然記念物として、文部省から指定を受けています。



妙見浦は、妙見崎・妙見・洞門・妙見洞窟からなり、波の浸食によってできた崖は高さ80mになるところもあり、海底で堆積してきた姫浦層群の隆起によって見事な景観をつくりだしています。
天草西海岸の代表的な景勝地の一つとされており、象の形に見えます。また、県内の有数のスキューバダイビングスポットとしても知られており、シーズンになると多くのダイバーが訪れます。
昭和31年に雲仙天草国立公園に指定され、天草地域は大小120の島々や海中ではサンゴ類も見られます。

いで湯の里 下田北

4 下田温泉の由来

約700年の歴史を持つ下田温泉。昔、一羽の傷ついた白鷺が傷を癒している所へ行ってみると、そこには温泉が湧きだしていたという話があり、別名「白鷺温泉」とも言われています。



立寄り湯の下田温泉センター 白鷺館

下田温泉は昭和38年4月19日に環境省より国民保養温泉地として指定を受けています。

8 五足の靴文学散歩道



散歩道の様子

明治40年の夏、与謝野鉄幹、平野万里、吉井勇、木下杢太郎、北原白秋ら5人衆が九州旅行の旅先から東京二六新聞に送られた紀行文の題名が「五足の靴」です。九州旅行の目的のひとつである大正教会のフランス人宣教師ガルニ工神父を訪ね語り合います。天草の文学と言えばすべて近代文学ですが、キリシタン由来の南蛮文化や異国情緒の妖しい香気に満ちた過去の歴史を母胎として、ようやく花咲いた文学と言えます。
その五人衆が長崎から大江村へ歩いたゆかりの道を文学散歩道として整備しています。



下田温泉神社



下田温泉旅館では8月〜12月の期間で伊勢えび料理も堪能できます